



# 平成18年度第5回三宅島磯根資源調査報告書

東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所

## 目的：

三宅島において、磯根漁業の産業重要種であるテングサ、サザエ、トサカノリ等の資源調査を行い、漁業者に情報を提供する。今回は漁港と港付近の調査を実施した。

調査日：平成18年8月29日（火）

備 船：第10金丸（船長：三宅島漁協沖山邦男組合長）

調査地点：図に示した三宅島内の6つの港および漁港とその周辺である。調査した水深は13m以浅とした。

## 調査項目：

マクサの0.5 m<sup>2</sup> 枠取り調査（1 × 0.5 m 枠）によって着生量を把握し、調査地点毎に作柄評価を行った。評価基準はA級（着生量 1,000g 以上/m<sup>2</sup>）、B級（着生量 500g 以上 1,000g 未満/m<sup>2</sup>）、C級（着生量 50g 以上 500g 未満）、D級（着生量 50g 未満）とした。また、枠取りでサンプリングした藻体 10 本の藻長を計測し、平均値を算出した。また、サザエ、フクトコブシ、アントクメ、トサカノリなどの目視観察も行った。



## 第5回三宅島磯根資源調査地点

表 1 . 調査結果 ( 漁場評価 )

調査地点 ( 水深 )	マクサ			その他
	漁場 評価	1m <sup>2</sup> 当たり の着生量 (g)	平均藻長 ( mm )	
底面の根固め石 ( 平面 )				
坪田漁港外側 ( 8.0m )	C	61	120	
三池港三池浜側 ( 9.2m )	C	367	110	サザエ大型個体多数生息を確認
湯の浜漁港外側 ( 9.2m )	C	410	146	
大久保漁港外側 ( 6.5m )	C	104	106	
伊ヶ谷漁港外側 ( 9.7m )	D	13	128	
錆が浜港先端 ( 8.5m )	D	11	85	
岸壁周辺				
坪田漁港側面 ( 6.8m )	C	318	172	
湯の浜漁港沖の岩礁帯 ( 10.0m )	B	688	159	
大久保漁港沖のテトラ ( 12.0m )	B	613	190	
伊ヶ谷漁港沖側の根固め石斜面 ( 10.0m )	B	511	207	

調査結果 :

マクサ

- ・今回は漁港と港周りの根固め石の底面とその周辺に着生しているマクサを対象に調査を行った。
- ・底面の根固め石での着生量は、三池港と湯の浜漁港が他の場所に比べて比較的多く着生していたものの、評価は C ランクであり、絶対量は少なかった。他の 4 カ所ではほとんどマクサは着生していなかった。
- ・今回、岸壁周辺では比較的着生量の多かった場所が見つかった。湯の浜漁港から 30m 程度離れた砂地に囲まれた岩礁帯では長くて良質のマクサがまとまって生育しているのが確認できた。また、大久保漁港沖のテトラにも長くて良質のマクサとヒラクサがまとまって生育していた。これらの場所は着生量も 1m<sup>3</sup> 当たり 700g 程度であり、藻体が長く、付着物も少ないので、漁業が行える可能性があると考えられた。
- ・伊ヶ谷漁港沖の根固め石でも藻体が長く付着物の少ないマクサが生育していたが、1m<sup>3</sup> 辺りの着生量は 500g 程度であり、湯の浜漁港沖や大久保漁港沖ほど着生量は多くなかった。

サザエ

- ・三池港の根固め石の隙間で多く観察できた。今年度の調査では他の場所ではほとんど生息が確認できなかったが、この場所は、定期船の航路であるためにイセエビの刺し網を仕掛けられないことや、水深が 10m 前後なので素潜りでは漁獲するのが困難であるためにこれまで漁獲されなかったと考えられた。したがって、この場所でサザエ漁業を行うためには、潜水器か刺し網が効果的であると考えられた。

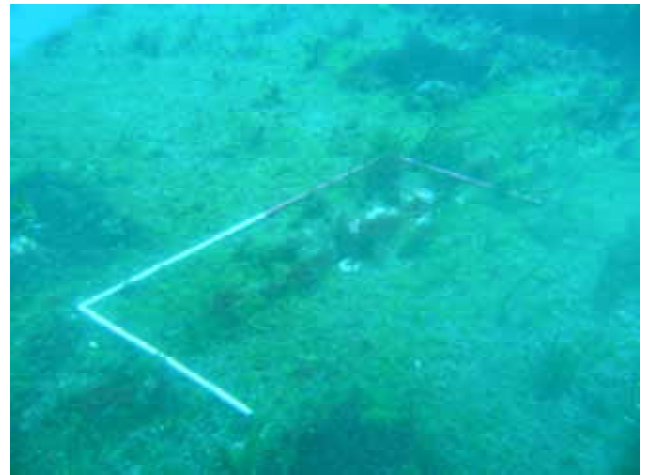
調査地点の概要 :

坪田漁港 9:42 ~ 9:55 ( 13 分間 ) 最大水深 8.5m 平均水深 7.3m 水温 26

- ・マクサは岸壁側面には比較的多く生育していたが、底面の平らな根固め石にはほとんど生育していなかった。
- ・底面でも、傾斜のある場所や角には少量のマクサが生育していた。
- ・マクサの藻質は、付着物が少なく良質であった。
- ・粹取りは岸壁側面 6.8m と平らな底面 8.0m で行った。
- ・アントクメはわずかにみられた。
- ・イセエビも数個体みかけた。



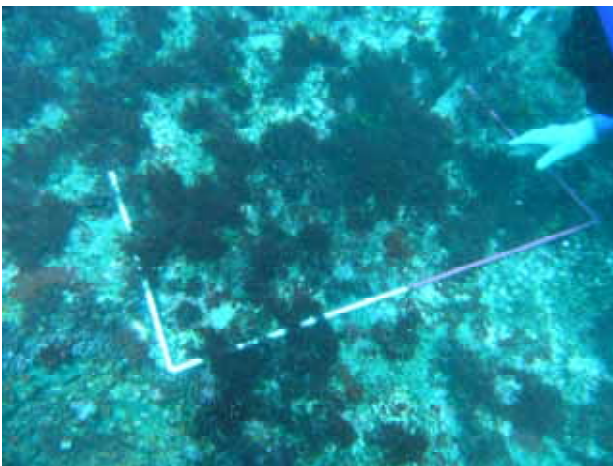
岸壁側面のマクサ。藻体が長い。



底面の枠取り位置。

三池港 10:31 ~ 10:50 (19 分間) 最大水深 13.1m 平均水深 9.4m 水温 23

- ・アラキ側は工事のため入れなかったため、三池浜側のみ調査した。
- ・マクサは岸壁側面にはほとんど生育していなかったが、底面の平らな根固め石にはほぼ一面に生育していた。
- ・ちょうど灯台の真下から沖へかけて新しい根固め石が入っており、今年に入れたものらしく、まだほとんど海藻類は着生していなかった。
- ・マクサの枠取りは底面の平らな場所 (9.2m) で行った。
- ・大型のサザエが根固め石の隙間に多く生息していた。密度は潜水調査委員 1 人が 10 分間で 5 個確認できる程度であった。当所で今年度行った調査では、サザエが多く生息している場所はこの場所だけである。
- ・アントクメは岸壁側面に群落を形成。根固め石にも散在していた。



底面の枠取り位置。



今年新たに入った根固め石、まだ表面に海藻類はほとんど付着していない。今後、どのような海藻が生えてくるか楽しみである。



サザエが多く生息していた



サザエは根固め石の隙間に潜んでいたが、狭いので、手が届かない場合もある

**湯の浜漁港 11:43 ~ 12:02 (19 分間) 最大水深 10.3m 平均水深 8.8m 水温 27**

- ・根固め石には陸上由来と思われる砂利が堆積していて、海藻類は着生していなかった。
- ・根固め石の端の角付近は砂利が流されていたため、その部分のみテングサ類が着生していたので、その場所(9.2m)で採取りを行った。
- ・根固め石と岸壁側面にはマクサ、オオブサ、オバクサが混生していて、オオブサの藻長は長かった。岸壁の側面には藻長の長いマクサが認められた。
- ・根固め石から 20 ~ 30m 沖の岩礁帯(水深 10m)には良質のマクサが多く着生していたので、その場所でも採取りを行った。周りはすべて砂地であった。



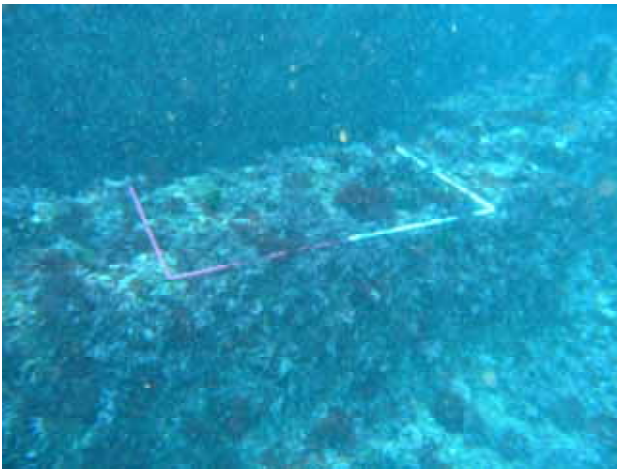
底面の採取り位置(左)。根固め石には角にしかテングサはなかった。テングサの生えていない場所は土砂が積もっている。



湯の浜漁港沖合の岩礁帯に着生しているマクサ群落、着生量が多く、良質であった。周りはずべて砂地である。

**大久保漁港 13:13 ~ 13:36 (23 分間) 最大水深 12.8m 平均水深 7.0m 水温 26**

- ・側面に近い根固め石付近 (5.3m) はサンゴモだらけの短いオバクサが優先しており、マクサはみられなかった。
- ・少し沖側 (6.5m) では底面にごくわずかにマクサが生えていたので、その場所で採取りを行った。
- ・さらに沖のテトラ (12m) には長くて良質のマクサとヒラクサが多く着生していた。群落の範囲も広域にわたっていた。



底面の採取り位置



根固め石にはサンゴモ付きのオバクサが優先



沖のテトラには良質のマクサ (左) とヒラクサ (右) が多く生育していた

**伊ヶ谷漁港 13:57 ~ 14:27 (30 分間) 最大水深 11.6m 平均水深 9.7m 水温 27**

- ・ここは先端の沖側で調査したが、底面にはほとんどマクサは生育していなかったが、マクサが1株着生していた場所(9.7m)であったので、そこで採取りを行った。
- ・傾斜のある場所では株数は多くないが、非常に長くて良質なマクサが着生していた。



このように、傾斜のある場所のみ、長くて良質のマクサが生育していた。

**錆が浜港 14:52 ~ 15:07 (15 分間) 最大水深 12.5m 平均水深 7.6m 水温 28**

- ・マクサはほとんど生育していなかったが、わずかに着生していた場所(8.5m)で採取りを行った。
- ・トサカノリが少し着生していたが、藻長は短かった。



底面の採取り位置



トサカノリが散在していた

調査：東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所  
滝尾健二  
川辺勝俊(とりまとめ)  
駒澤一郎  
漁業調査指導船「やしお」小湊教行船長他乗組員6名